

2023年3月期 第3四半期 決算補足資料

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 決算概観（連結） | P.2 |
| 2. 第3四半期 業績のポイント | P.3 |
| 3. 第3四半期 業績の状況 | P.4 |
| 4. 主要製品の状況 | P.5 |
| 5. 第3四半期 業績と予想（連結） | P.6 |
| 6. 開発品一覧 | P.7～9 |

2023年2月6日
キョーリン製薬ホールディングス株式会社



■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2023年3月期 第3四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	23年3月期 第3四半期	対前年 (%)	23年3月期 (予想)	対前年 (%)
売上高	78,614	74,955	77,717	80,707	+3.8	112,000	+6.1
営業利益	5,271	4,114	2,926	4,702	+60.7	5,500	+9.8
経常利益	5,836	4,656	3,515	5,336	+51.8	6,000	+7.7
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	4,374	4,504	2,483	4,377	+76.3	4,500	+14.4

23年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

【売上高】 薬価改定（杏林製薬8%台）や新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、積極的な製品普及の拡大に努めたことにより新薬群は伸長し、新医薬品等（国内）は前年同期を上回る実績で推移しました。また後発医薬品の売り上げも増加し、全体の売上高は807億07百万円と前年同期比29億89百万円増となりました。

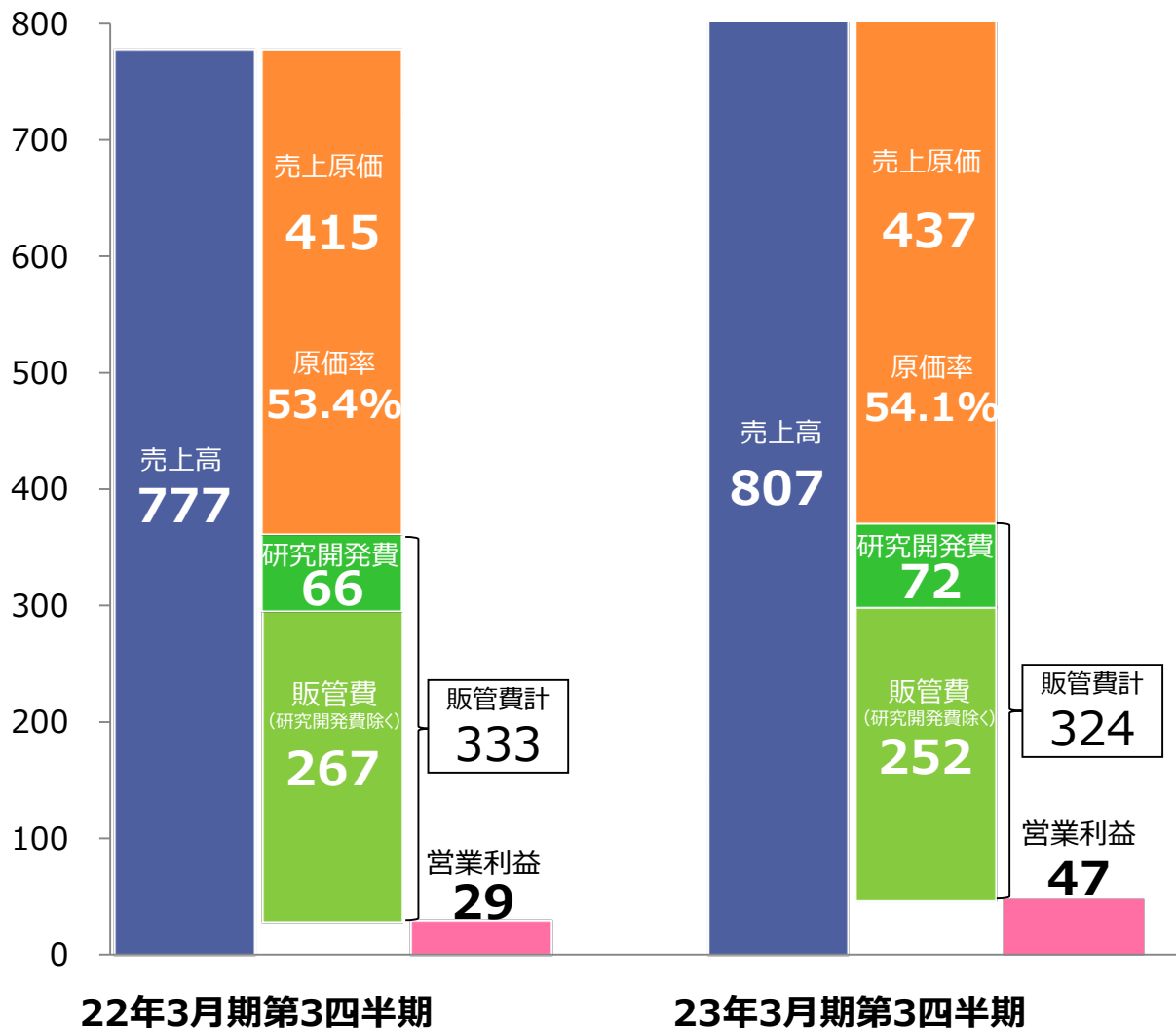
【利益】 薬価改定等の影響により売上原価率が上昇したものの、売上拡大により売上総利益は370億55百万円と前年同期に対して8億14百万円増加しました。また前年に計上した導入品に関わる契約一時金の反動減等により販売費及び一般管理費が9億61百万円減少（内、研究開発費は5億85百万円増加）した結果、営業利益は47億02百万円と前年同期に対して17億76百万円の増益となりました。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、西日本配送センターにおける火災に関わる特別利益12億83百万円を計上する一方、杏林製薬（株）の子会社であるActivX社の解散費用6億89百万円を特別損失として計上した結果、43億77百万円となりました。

23年3月期 連結業績（予想）

現時点におきまして、2022年5月11日に公表した2023年3月期（通期）連結業績予想は変更しておりません。また2022年5月11日に公表した配当予想（年間52円/株）につきましても変更はございません。

2023年3月期 第3四半期 業績のポイント

(単位：億円)



売上高は増加 (+30億円)

- 新医薬品等（国内）の売上増加
 - 新薬群（ベオーバ、デザレックス等）は増加
 - 長期収載品、他社への導出品売上は減少
- 後発医薬品の売上増加

売上原価率が上昇 (+0.7ポイント)

【低下要因】

- 新薬群の売上増加

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬8%台）
- 後発医薬品の売上増加

売上総利益は増加 (+9億円)

販管費は減少 (-9億円)

- 研究開発費は増加 (+6億円)
 - 導入に伴う契約一時金の計上、開発パイプラインの進展
- 販管費（研究開発費除く）は減少
 - 主に一般経費の減少（特許等使用料等）
 - 前年計上した導入品に関わる導入一時金の反動減及びロイヤリティ支払いの減少

営業利益は増加 (+18億円)

2023年3月期 第3四半期 業績の状況



(単位：億円)	22年3月期 第3四半期	23年3月期 第3四半期	対前年 (額)
売上高	777	807	+ 30
新医薬品等(国内)	524	541	+ 17
新医薬品(海外)	5	5	0
後発医薬品	249	261	+ 12
営業利益	29	47	+ 18
経常利益	35	53	+ 18
親会社株主に帰属する 四半期純利益	25	44	+ 19

				(対前年)
■ 売上高	807億円			(+ 30)
● 新医薬品等 (国内)	541億円			(+ 17)
	22.3 (3Q)	⇒	23.3 (3Q)	
・フルティフォーム	98	⇒	91	(- 7)
・デザレックス	43	⇒	48	(+ 5)
・ベオーバ	65	⇒	92	(+ 27)
・ラスビック	14	⇒	18	(+ 4)
・リフヌア	—	⇒	1	(+ 1)
・ペンタサ	109	⇒	99	(- 10)
・キプレス	61	⇒	46	(- 15)
・ムコダイン	29	⇒	28	(- 1)
・ナゾネックス	13	⇒	11	(- 2)
・ウリトス	10	⇒	6	(- 4)
● 新医薬品 (海外)	5億円			(0)
● 後発医薬品	261億円			(+ 12)
キプレスのオーソライズド・ジェネリックであるモンテルカスト錠「KM」の売上増加 2022年度発売の追補収載品等の売上寄与				
■ 営業利益	47億円			(+ 18)
● 原価率：54.1% (前年同期：53.4%)	【低下要因】新薬群の売上増加 (ベオーバ、デザレックス等) 【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加			
● 研究開発費：72億円 (前年同期：66億円)	導入に伴う契約一時金の計上 (GMAC、治療用アプリ)、開発パイプラインの進展			
● 販管費(研究開発費除く)：252億円 (前年同期：267億円)	主に一般経費の減少 (特許等使用料等) ・前年計上した導入品に関わる契約一時金の反動減及びロイヤリティ支払いの減少			
■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	44億円			(+ 19)
特別利益：西日本配送センターの火災に関わる保険差益8億81百万円、 受取損害賠償金4億01百万円				
特別損失：ActivX社の解散に関わる減損損失1億05百万円、 関係会社整理損失引当金繰入額5億83百万円				

2023年3月期 第3四半期 主要製品の状況



(単位：億円)		第2四半期		第3四半期				通期		
		22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)	進捗率 (%)
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	63	57	98	91	-7	-7.1	126	120	75.6
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	26	30	43	48	+5	+10.4	71	80	59.7
	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	43	55	65	92	+27	+42.8	86	141	65.1
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	8	10	14	18	+4	+24.4	18	30	57.8
	リフヌア (選択的P2X3受容体拮抗薬/咳嗽治療薬)	-	1	-	1	+1	-	-	5	25.0
	ペントサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	71	65	109	99	-10	-9.0	140	125	79.1
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	36	27	61	46	-15	-24.8	84	68	67.0
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	16	15	29	28	-1	-3.0	35	29	93.3
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	7	6	13	11	-2	-14.2	24	18	59.6
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	7	4	10	6	-4	-45.1	13	7	74.1
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	10	10	16	16	0	+0.1	21	20	77.4
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	10	11	15	16	+1	+5.6	21	20	78.9	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	51	54	85	87	+2	+2.6	122	107	81.1
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	10	11	19	19	0	+1.2	36	36	53.4
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	4	4	6	5	-1	-9.0	8	5	95.4

2023年3月期 第3四半期 業績と予想 (連結)



(単位：百万円)	第2四半期		第3四半期				通期		
	22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (実績)	対前年 (額)	対前年 (%)	22年3月期 (実績)	23年3月期 (予想)	進捗率 (%)
売上高	49,102	49,093	77,717	80,707	+2,989	+3.8	105,534	112,000	72.1
新医薬品等 (国内)	33,279	32,651	52,369	54,055	+1,686	+3.2	69,725	74,500	72.6
新医薬品 (海外)	342	312	493	532	+39	+7.9	1,033	700	76.1
後発医薬品	15,481	16,128	24,855	26,119	+1,264	+5.1	34,775	36,700	71.2
営業利益	-68	777	2,926	4,702	+1,776	+60.7	5,007	5,500	85.5
経常利益	285	1,171	3,515	5,336	+1,820	+51.8	5,569	6,000	88.9
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益	121	1,242	2,483	4,377	+1,894	+76.3	3,932	4,500	97.3

開発品一覧① (2023年2月6日現在)

Ph3 ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph3 (22年9月)	Ph3 (aTyr : 米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体 (NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	

POCプロジェクト (Ph1 ~ Ph2)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph1 (22年8月)	—	KRP-114VP	過活動膀胱	メルク社	膀胱平滑筋に存在するβ3アドレナリン受容体を選択的に刺激し、膀胱を弛緩させることで蓄尿機能を亢進し、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁を改善する	「ベオーバ」の小児への適応拡大
—	Ph1 (21年4月: 英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧② (2023年2月6日現在)

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph2 (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月) 高用量での追加Ph1試験 (終了)

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph1	KRP-203	Priothera (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)

契約時期	契約先	内容
2022年11月	サスメド	<p>耳鼻科領域における治療用アプリの共同研究開発及び販売に関する契約を締結</p> <p>杏林製薬が有する疾患領域に関する知見ならびに臨床開発力及び販売力と、サスメドが有する治療用アプリの開発プラットフォームや臨床試験実施に関連するシステム、治療用アプリの研究開発ノウハウなどを活用する</p>